

共感力が身につく英文学

人の考えや感情を知り共感力を高めるには小説を読んで疑似体験することが有効と考えています。西工大が目指す人間力の原点は共感力です。そこで、今回はディケンズの小説「二都物語」(加賀山卓朗訳、新潮文庫)を紹介します。情景描写が上手く登場人物が生き生きと描写されていて共感できる言葉や行動が随所に出てきます。読み進むと人間力を高める共感力が自然に身につくはずですよ。

物語はフランス革命前後のパリとロンドンが舞台です。1775年11月末、無実の罪でバスティーユに投獄され記憶をなくしたマネット医師が解放されたとの知らせが英国に届きます。医師をロンドンに連れ帰る命を受けた銀行勤めのローリー氏が医師の娘ルーシーとドーバーで落ち合いパリに赴く場面から話が始まります。フランスの暴政を嫌い、爵位を捨てて英国に亡命したダーネイと酒浸りの弁護士カートンの二人がルーシーに思いを寄せています。ルーシーはダーネイと結婚するのですが、記憶を取り戻したマネット医師はダーネイになぜかフランス時代の過去を明かさないと結婚の条件にします。幸せに暮らし始めたダーネイの許にフランス時代の使用人から「囚われの身になった。救えるのは貴方しかいない」という手紙を受け取り、内緒でパリへと出立します。しかしフランスは革命の嵐が吹き荒れ、亡命貴族のダーネイは囚われてしまいます。マネット父娘が救出に向かいますが時代の荒波に翻弄され身動きが取れません。紆余曲折の末、死刑宣告を受けたダーネイは救出されますが、カートンは身代わりとなって断頭台に散るのです……。話の展開が早く伏線が随所に隠されていてハラハラどきどきの連続でサスペンス映画を見るように読み進めます。ただ、長編なので手が出ないと感じる人には同じ英国作家のシェイクスピアの作品群をお薦めします。有名な作品が多いので何を読めば良いか悩みますが、まず、ラム姉弟の「シェイクスピア物語」を手にとると良いでしょう。

身近な山にもこんな歴史が！

今年のゴールデンウィークは、おぼせキャンパス近くの低山をトレッキングしました。キャンパスがある京都郡は、奈良時代に豊前国の国府が置かれるなど古代から開けたところです。近くを流れる小波瀬川沿いには、かつて草野津と呼ばれた港があり、そこから大宰府まで官道が通っていました。白村江の戦い(663年)に大敗した倭国は唐や新羅の侵攻を恐れ、7世紀末にこの官道を見渡せる御所ヶ岳(約247m)に山城を築きました。

4月30日、この御所ヶ岳から歩き始めました。行橋市の南西端にある登山口、御所ヶ谷住吉池公園から暫く登ると古代山城の中門と言われている神籠石に出会います。この山城を守った防人(さきもり)はどこから来たのか等と古代に思いを馳せながら歩いて山頂へ。山頂から眼下に広がる平野を眺めた後、北東に連なりその姿が鞍をおいた馬のように見える馬ヶ岳(216m)に足を伸ばしました。急な坂を下ってから尾根伝いに登りなおした山頂には942年に源経基によって築かれ、昨今は黒田官兵衛が居城したことで有名な馬ヶ岳城址がありました。城址からの眺めは最高で、北に平尾台、東に周防灘、南は遠くに由布岳を望め城主の気分になります。翌5月1日は自宅に近い門司の古城山(175m)を目指しました。豊前誌によると1185年に平知盛が家臣の紀井通資に命じて築いた城とされています。登山道の途中に源平合戦の説明板があり、頂上の城址から壇ノ浦を見下ろすと源平合戦の絵巻が浮かんできます。この門司城は苅田町の松山城と共に戦国時代に周防の大内氏と豊後の大友氏の攻防が何度もあった城です。休養後の4日は京都郡と田川郡の郡境で秋月・田河街道を見下ろす障子ヶ岳(427m)にみやこ町側から登りました。この山にも足利尊氏の命で1336年に足利駿河守統が築城したとされる山城跡が残っており、豊臣秀吉の九州征伐の舞台になったという歴史を知りました。古代から続く歴史が詰まった近くの低山、いずれも歩行距離は10km程度で所要時間は2時間半から3時間ですが、山歩きをしたという満足感も味わえます。皆さんもいかがですか。